

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174800449		
法人名	秩父福祉会		
事業所名	グループホーム ひなた		
所在地	埼玉県秩父市吉田久長193		
自己評価作成日	令和3年1月23日	評価結果市町村受理日	令和3年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9		
訪問調査日	令和3年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成15年開所以来、法人の基本理念「安全・安心・ご利用者本位の、地域に開かれた施設運営」を目指しています。当グループホームは、利用定員が9名と少人数ですが、アットホームな雰囲気です。利用者一人ひとりがホームでの生活に生きがいを感じ生活ができるよう目指しています。また、法人内の管理栄養士と相談しながら健康状態に応じた食事の提供と水分摂取、口腔ケアの実施、行事を計画し、利用者、職員ともに感動共有が図れるよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●1ユニット9人のグループホームとして家庭的な支援がなされています。小規模であるメリットをいかし、利用者と職員との関係性を近くし、細やかかつ柔軟な支援のもと運営がなされています。
 ●感染症対策として消毒・手洗い等に留意しており、職員はマスク・ゴーグルの着用等配慮しています。またテーブルへのアクリル板設置、利用者もマスクを着けるなど協力をしてもらい、対応を図っています。
 ●訪問調査当日も洗濯ものたたみやレクリエーションを楽しむ利用者の姿を拝見することができました。ホーム全体として利用者が遠慮したり我慢をしたりしないよう細かな配慮をしていることが理解できます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気の中で生活が送れるように、当法人の基本理念の「白砂恵慈園三訓」を掲示し、職員が唱和し共有することで日々の業務につなげている。	在籍の長い職員により理念の実践・細やかな支援がなされています。家庭的なケアにより利用者が安心した暮らしを継続できるよう取り組んでいます。	職員の年齢構成を考慮し、採用・異動を通して新たな人材の育成を要しています。グループホームの支援の専門性に鑑み、今後の継続運営のため、早めの準備の必要性を認識しています。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の高齢化と介護度の上昇で外出の機会が減少に加えて、コロナ禍により地域とのつながりや交流が制限されてしまった。	新型コロナウイルスの影響により地域との交流については中断がなされています。終息し、以前の日常をとりもどすことが何よりも待たれます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からの認知症に対してや入所申し込み等の相談があった場合には必要に応じた助言を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第4木曜日に運営推進会議を開催予定だったが、コロナ禍において会議は行わずに書類にて利用者様の状態、ホームの活動状況の報告を行い、委員との意見交換や情報提供、助言をいただいた。	新型コロナウイルスの影響により集合しての開催を中断しています。前月までの活動等を書面におこし、委員に配布するなどこれまで同様ホームの運営を理解してもらえよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	秩父市役所吉田総合支所市民福祉課課長、吉田包括支援センター職員と運営推進委会議書類を持参時に情報共有を行い日頃から協力関係を築いている。	行政に対してはホームの状況を知ってもらえるよう報告等に努めています。新型コロナウイルスの留意事項についてはメール等にて指導を受け、対策を講じています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上19時から7時まで施錠を行っているが、月1回の会議や勉強会を通じ身体拘束への理解を心掛け、状況に応じて見守りや対応を行っている。	毎月の会議時に事例検討をするなど身体拘束をしないケアについて周知と徹底に努めています。また利用者の権利が守られるよう各種研修の開催・資料配布を通して研さんに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加、定期会議で職員間で虐待防止の共有を図る他、職員の日々の言動、行動が不適切なケアを生じ虐待を引き起こしていないか確認を努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の参加と権利擁護に関する情報を職員間で共有し必要に応じて家族等に助言できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書や重要事項説明書の内容を丁寧に説明し、理解と同意を得ています。更に利用者や家族に不安や疑問等がないかの確認も行いながらすすめています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍であるので面会には制限をさせていただいています。数少ない来訪時や電話連絡等を通じて利用者のホームでの様子を報告し要望に対しては、会議や日々の業務内で検討している。	ホームから家族への便りは写真とコメントが付されており、生活の様子を伝えています。居室担当職員の工夫や人柄が表れており、本評価に伴う家族アンケートでも楽しみにしている旨の意見がありました。	終息が見えないコロナ禍に対してリモートによる面談や運営推進会議の実施を課題としています。セキュリティや機器などを考慮し、総合的に検討していくことが望まれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務内や定期会議、ストレスチェックなどを行い、積極的に職員とコミュニケーションを図り意見や提案を聞くように心掛けている。	毎月「ひなた会議」を開催し、研修・報告等を行っています。職員が膝をつき合わせることで日頃の引き継ぎ等では伝えきれない細かいことを話し合うよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件の整備等の要望について職員間で意見交換を行い、法人内の労働安全委員会や法人内の代表者会議で職場の改善に向けた提案を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはできる限り参加し、内部研修では月ごとに研修内容を決め職員間で共有できるように伝達研修を実施し職員のスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本来であれば地域密着型サービス連絡協議会の研修に参加、交流を行う予定であったが、コロナ禍のため行うことができなかった。今後はコロナ禍であってもできることに目を向けた取り組みを同業者と行いたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に本人と家族に面談を実施。課題要望等を聞き出し安心してサービスを利用につながるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホーム入所までの家庭での様子や取組み、サービスの利用状況、要望等を聴き、家族が安心できるような関係作りに努めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時による、本人・家族の要望等を確認し、必要に応じてその方に適したサービスの助言をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で利用者の立場に立ち、それぞれの思いに耳を傾けられるように心がけ、家族と同じような関係が築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に本人の様子をお便りで報告、電話や来訪時の家族との会話も大切にし、信頼関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で制限はあるが、馴染みの人と交流が出来るよう、家族等の窓越しでの来訪により交流を行っている。	1ユニット9人のグループホームとして家庭的な支援がなされています。小規模であるメリットをいかし、利用者と職員との関係性を近くし、細やかかつ柔軟な支援のもと運営がなされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アクリルパネルの設置により利用者が孤立しないように、一人ひとりの個性や相性などを考慮し職員が間に入るなどの配慮を行い利用者同士が関わられるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても家族が顔を出してくれたり、外出時に声をかけてくれる方もいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との日々の関わり会話の中で、本人の要望等を聴き取り、困難な場合は本人の立場に立ち、家族に相談し職員間で検討・決定しています。	意思の表明をしづらい利用者に対しても回答がしやすいよう質問を考慮するなど要望の聴取に注力がなされています。また利用者が遠慮したり我慢をしたりしないよう配慮に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの生活歴、暮らし方、生活環境、趣味や嗜好の聞き取りを行い、職員間で情報の共有と把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活歴やグループホームでの日々の援助で得た情報を職員間で共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状態に適した対応を心掛けています。日頃の状態を家族に報告し、本人や家族の要望を踏まえて介護計画を作成し実践している。	利用者・家族の要望を考慮しケアプランの策定にあたっています。短期だけでなく長期の意向に対して応えていくことを使命として捉えた支援・運営に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・連絡ノートに記録し、職員間での情報共有するために、勤務前に目を通しより良い支援が出来るよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状態や希望に応じて通院・買い物・理美容・書類の手続き等は臨機応変に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内や健康福祉課、包括支援センターとの連携を図りながらコロナ禍ではあるが安全に生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族へ受診をお願いしながら場合によっては職員の受診のフォローを行い本人と家族の希望に治えるようかかりつけ医との連携を図っています。	ホームの支援および家族の協力のもと通院・受診がなされています。医療機関とは今後も関係を深めていき、利用者の重度化への対応を向上させていくことを目標としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームには看護職はいないが場合によってはデイサービスや特養の看護職員と連携を図り対応、また急変時の協力体制を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者と情報交換を行い、退院へ向けた調整や退院後のグループホームでの生活へのアドバイスをいただく等、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とサービス担当者会議等で重度化、終末期について話し合いを設けています。グループホームでの看取りや法人内の特養への入所も今後の選択肢の一つとして情報提供させていただいています。	利用者・家族の要望を考慮し、利用者の将来を見据えた支援となるよう取り組んでいます。慣れ親しんだ生活が継続できるよう、意向に応えるべく重度化への対応を図っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会議での研修や、緊急時のマニュアルを整備・検討を行い急変や事故発生時に対応できるように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立ち合いのもと避難訓練の実施、職員の連絡網の使用、近隣の方への協力もお願いしている。	避難訓練の実施等により万一の事態に備えるよう努めています。併設された他事業所と連携し、利用者の安全確保体制が整備されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の業務内や会議、研修等で意識向上を図り、当法人の三訓をもとに利用者の誇りやプライバシーを尊重するよう心掛けています。	利用者との会話においては場所や時間の考慮に取り組んでいます。コロナ禍にあっては終息後の外食や買い物など外出支援を願いつつ、利用者のストレスが緩和されるよう配慮に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から馴染みの関係を構築し、利用者に合わせて声掛け、コミュニケーションを図り自己決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての1日の流れはありますが、本人との関わりの中で、体調や気分に応じて希望を引き出したり察したりしながらその日を過ごせるように支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えはこちらで用意したものを着ていただいているが、本人から希望があれば選んでもいただけるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	セントラルキッチンからの供給のため準備や片付けは行っていないが、本人の体調に応じた食事・水分を提供している。、食事と水分量を記録している。	おやつを皆で作る機会を設けており、利用者の楽しみとなるよう努めています。水分摂取については1日の摂取目標を定め、健康管理・維持に取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と連携し1日に必要な食事を提供しています。水分は毎食事、10時、3時に1日1500mlを目安に摂取していただき、月1回体重測定も行い健康管理に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前には口腔体操を行い、食事後は1人ひとりに応じて入歯の洗浄や口腔ティッシュを使用する等の口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者毎に定時・随時、声掛け等で対応しています。排泄チェック表を活用し排泄の把握とまたその時の様子や体調によっても対応しています。	なるべくトイレでの排せつとなるよう自立支援に努めています。また肌荒れなどスキントラブルに対してもチェックし、対応に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質を含む献立やおやつを提供、水分を1日1.5ℓ摂取を基本にレクリエーションや体操等を取り入れ、場合によっては服薬により排便を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めさせていただいていますが、その日の体調や気分に応じて個々のペースで入浴できるよう支援しています。拒否的な方には声掛けの工夫や職員の交替など行っています。	利用者の状況や状態にあわせた入浴実施にあたっています。重度化に対しては個別のケア方法により安全を考慮しながら清潔の保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促したり、安眠へ向けた環境を整えたり、馴染みの毛布の使用等により安心して休んでいただけるように支援しています。不眠がみられる場合には安心できるような対応を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を把握し、服薬時には利用者名と薬があっているか職員で確認、服薬できたかの確認。場合によっては家族、主治医に服薬状況を報告し薬の変更があった場合は、職員間で情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能の活用や利用者の力を活かせる役割などを見つけてだし、発揮していただけるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において思うように戸外には出掛けることができませんでした。	新型コロナウイルス感染防止にあたって外出行事やドライブなどは控えており、近隣の散歩などにより季節を感じられるよう取り組んでいます。これから暖かくなる中で外気浴などの機会を増やしていく意向をもっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より小額のお金を預かり職員が管理、購入時には家族の了解、又は報告により購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話や手紙のやり取りは難しいが、家族からの届け物があった時には電話をかけて話をします。手紙葉書が届いたときには本人に渡しています。その様子は写真に残しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年間を通じて温度、湿度、換気の管理にも注意を払い居心地よく過ごせるように配慮しています。コロナ禍で思うように外出できないがホーム内を季節感のある飾りつけを施しています。	感染症対策として消毒・手洗い等に留意しており、職員はマスク・ゴーグルの着用等配慮しています。またテーブルへのアクリル板設置、利用者もマスクを着けるなど協力してもらい、対応を図っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内にソファ置き気分転換が図れるようにしたり、計算問題やテーブル上で行えるグッズを行えるように工夫を凝らしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では気持ちよく過ごしていただけるように、馴染みのある物や家具の配置にも気を付け、自分の居室だと確認できる物を居室前に置き自分の居場所が確認できることで居心地よく過ごしていただけるよう工夫しています。	居室には自宅から持参した写真等が飾られており、プライベートなスペースとなっています。職員により換気がなされており、衛生への配慮がなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室・玄関に手すりがあり安全に移動できること、またホーム内に名称を表示することで本人の自立度を高めています。		

目標達成計画

作成日: 令和3年4月5日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員の年齢構成を考慮し、採用・異動を通して新たな人材の育成を要しています。グループホームの支援の専門性に鑑み、今後の継続運営のため、早めの準備の必要性を認識しています。	新規職員や法人内の職員の異動も含めた新たな人材を育成しグループホームの継続運営が必要となる。	<ul style="list-style-type: none"> 職員採用の募集をHPへ掲載、ハローワークに募集、就職説明会参加等を行う。 法人内の人事課や他部署との調整により異動や新規職員を採し獲得を図る。 夜勤のみの職員など働き方への柔軟な姿勢で採用を目指す。 	12ヶ月
2	10	終息が見えないコロナ禍に対してリモートによる面談や運営推進会議の実施を課題としています。セキュリティや機器などを考慮し、総合的に検討していくことが望まれます。	今年度はコロナ禍ではあるが運営推進会議が開催されるよう検討、模索する。	<ul style="list-style-type: none"> 会議室の選定や密にならないような環境を検討し従来型の対面での会議を実施する。 ZOOM等の方法で開催を検討する。 今まで開催していた日時等の検討を行い開催しやすい会議を実施する。 	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。